

「在村医師親子の日記を読む」

資料 1 天保五年 忘

(小室家文書 No. 三九二)

天保五年午六月朔日二日快晴、当月
ハ氣（氣）候宜敷、蚊も昨夜職聽方沢山出申候、
是ニ而ハ秋毛も実のり能、豊年□
可有之と衆人申候、大野江行、
世間流行病多く御座候、遷延
神經熱ニ御座候
二日四ツ頃方○朝之記録之所、大野方
薬取ニ参候故ニ薬遣不参也、然所、
四ツ頃より雨を催し次第ニ降續（続）、
今日昼後ニ雨つよく降、不定
可恐 気候也、
三日も雨降、今日大野江行、元貞ハ
中尾江行、勉中竹本、容敬は
風邪
六月二日ニおてつ来ル、小川 伯父
連立候、江戸疫疾流行、栄林子
筆屋も風邪ニ而家内平臥之
由ニ付、 連帰り候、御旗本様も
人減し、米穀高直ニ而おてつ
も人へらし、御按被下候ニ付

資料2 天保五年 如達堂日記

(小室家文書No.三九七)

○廿九日雨 兩人休積ニ候
髮結来ル

○卅日大雨、七ツ頃方晴ル、夜中全晴
大人休ミ 元貞大谷綿屋方クマイ来波
江行 道具屋忠二郎泊リ

○六月朔日快晴

大人大野傳(伝) 兵衛江行、平兵右衛門江立寄

元貞川久保方大塚左兵衛・横田村源

五郎江行 比留間半蔵来ル、

面小手持参、代四十六匁三分七厘、疾ニ

相渡置申候 無名式尺五分

刀鏢と取替申候、忠二郎小川江行ニ

付、青山迄元貞同道ニ而行

○二日四ツ時方雨

元貞本田江行、小川江立寄帰

宅仕候 大人休ミ

比留間半蔵殿江面之代式百七十

八文拂(払)遣申候

忠兵衛おてつ同道ニ而帰宅

江戸も米穀高直ニ而處(処)々

ニ而粥雑炊計給候談ニ御坐候

○三日雨

元貞大谷綿屋方中尾江行、元

司再発之由、夜中迎来ル